

科目名	言語ⅡB						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科2年						
授業概要	N1レベルの文法項目を学び、日常的な場面に加えて更に幅広い場面で使われる日本語が理解し、運用できるようになる						
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					日常のより幅広い場面で必要なN1レベルの文型を理解し、自分の言葉で説明できる	
	○					フォーマルな場面と日常的な場面での日本語の差異を理解し、適切な文法の使い分けができる	
		○				学習した文型を使って相手や状況にふさわしい文を作ることができる	
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1・2	前期の復習 / 文法形式の整理 C・D					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	3・4	文法形式の整理 E / 文法形式の整理 F					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	5・6	文法形式の整理 G / まとめテスト					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	7・8	第2部1課文の組み立て1/ 2課文の組み立て2					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	9・10	第2部3課文の組み立て3/ まとめテスト					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	11・12	第3部1課時制 / 2課条件を表す文					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	13・14	3課視点を動かさない手段1 / 4課視点を動かさない手段2					授業内評価テスト準備
	15・16	授業内評価テスト① / 第3部5課視点を動かさない手段3					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	17・18	6課視点を動かさない手段4 / 7課指示語表現					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	19・20	8課「は・が」の使い分け / 9課接続表現					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	21・22	10課省略・繰り返し・言い換え / 11課文体の一貫性					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	23・24	12課話の流れを考える / まとめテスト					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	25・26	第1回模擬試験 / 解説					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	27・28	第2回模擬試験 / 解説					授業内評価テスト準備
	29・30	授業内評価テスト② / 履修内容のまとめ					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト・課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語基礎ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科2年						
授業概要	日本語能力試験N1レベルの語彙をマスターするために、専門のテキストに沿って学習し、知識を積み上げていく。また、学んだ語彙を使用した発話練習も行う。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					日本語能力試験N1レベルの語彙を習得する	
		○				習得した語彙を適切な場面で運用できるようになる	
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター語彙 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第2部2章1課「副詞・形容詞」				次回の予習・小テストの準備	
	2	第2部2章2課「動詞・名詞」				次回の予習・小テストの準備	
	3	第2部3章1課「漢語」				次回の予習・小テストの準備	
	4	第2部3章2課「和語」				次回の予習・小テストの準備	
	5	第2部4章1課「程度、時間、頻度の副詞」				次回の予習・小テストの準備	
	6	第2部4章2課「後ろに決まった表現が来る副詞」				次回の予習・小テストの準備	
	7	第2部4章3課「まとめて覚えたい副詞・その他の副詞」・復習				次回の予習・授業内評価テストの準備	
	8	第2部5章1課「ものの様子・人の様子①」・授業内評価テスト①				次回の予習・小テストの準備	
	9	第2部5章2課「人の様子②」				次回の予習・小テストの準備	
	10	第2部6章1課「体の言葉を使った慣用表現①」				次回の予習・小テストの準備	
	11	第2部6章2課「体の言葉を使った慣用表現②・その他の慣用表現」				次回の予習・小テストの準備	
	12	第2部7章1課「複合動詞①」				次回の予習・小テストの準備	
	13	第2部7章2課「複合動詞②」				次回の予習・小テストの準備	
	14	第2部7章3課「接尾辞・接頭辞」				次回の予習・授業内評価テストの準備	
	15	復習・授業内評価テスト②					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト・課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。 授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語応用ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科2年						
授業概要	N1レベルの聴読解問題に取り組み、実生活の幅広い場面で必要な読み聴きの力を習得することを目的とする。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					N1レベルの語彙や表現を習得し、使用言語域を拡大することができる。	
		○				耳からの情報だけで話の要点を掴み、内容を理解し適当な応答をすることができる。	
		○				文章を正しく読み取り、文脈や話の意図が理解できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『ドリル&ドリル日本語能力試験N1聴解・読解』(ユニコム) 『新完全マスター読解N1』(スリーエーネットワーク)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	後期授業について、読解：文章のしくみを理解する 対比					授業の復習および次回の予習
	2	聴解：課題理解第3回、読解：文章のしくみを理解する 言い換え					授業の復習および次回の予習
	3	聴解：ポイント理解第3回、読解：文章のしくみを理解する 比喩					授業の復習および次回の予習
	4	聴解：概要理解第3回、読解：文章のしくみを理解する 疑問提示文					授業の復習および次回の予習
	5	聴解：即時応答第3回、読解：問を解く技術を身に付ける 指示語を問う					授業の復習および次回の予習
	6	聴解：統合理解第3回①、読解：問を解く技術を身に付ける 誰が何を問う					授業の復習および次回の予習
	7	聴解：統合理解第3回②、読解：問を解く技術を身に付ける 下線部の意味を問う					授業内評価テスト準備
	8	授業内評価テスト①、後期前半まとめ					授業の復習および次回の予習
	9	聴解：課題理解第4回、読解：問を解く技術を身につける 理由を問う					授業の復習および次回の予習
	10	聴解：ポイント理解第4回、読解：問を解く技術を身に付ける 例を問う					授業の復習および次回の予習
	11	聴解：概要理解第4回、読解：全体をつかむ					授業の復習および次回の予習
	12	聴解：即時理解第4回、読解：情報を探し出す 広告					授業の復習および次回の予習
	13	聴解：統合理解第4回①、読解：情報を探し出す お知らせ					授業の復習および次回の予習
	14	聴解：統合理解第4回②、読解：情報を探し出す 説明書き					授業内評価テスト準備
	15	授業内評価テスト②、後期後半まとめ					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト・課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	通訳ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	田中 雅彦
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科2年						
授業概要	よりフォーマルな日本語の会話ができたり、文章を作ることができるようになるため、その技法を学び、社内で使用されていく表現を修得する。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				自ら設定したテーマに沿って簡単なレポートを書くことができる	
		○				作成したレポートの内容を日本語を使って説明ができる	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	オリエンテーション、通訳の基礎知識の復習					テーマを決める
	2	テーマ設定、母国語にて情報収集					
	3	母国語から日本語へ					
	4	母国語から日本語へ					
	5	中間まとめ					
	6	原稿準備					
	7	原稿準備					原稿作成1次々切り
	8	原稿推敲 個人指導					
	9	原稿推敲 個人指導					
	10	原稿推敲 個人指導					
	11	最終原稿まとめ					
	12	発表①					
	13	発表②					
	14	発表③					
	15	総論					
評価方法	(1)提出物 (2)受講状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物	○	◎				80%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。 再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡB											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		寺崎 葉子			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	企業内、ビジネス場面で想定される会話が理解でき、応答できるようになる											
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					日本企業で働くにあたって必要な語彙の習得し、自分の言葉で説明できる						
		○				相手から発せられた会話が理解でき、適切な応答ができる						
		○				適切な語彙、マナーや日本の習慣、慣習も踏まえた発話ができる						
テキスト・教材 参考図書	『人を動かす!実戦ビジネス日本語会話【中級】』(スリーエーネットワーク 2016年)											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	授業概要説明、第4課「営業報告会に出る」										
	2	第4課「営業報告会に出る」										
	3	第4課「営業報告会に出る」										
	4	第4課「営業報告会に出る」						第5課の会話確認				
	5	第5課「職場の人とランチに行く」										
	6	第5課「職場の人とランチに行く」										
	7	第5課「職場の人とランチに行く」						授業内評価テストのため第4課、第5課の復習				
	8	第5課「職場の人とランチに行く」・授業内評価テスト						第6課の会話確認				
	9	第6課「家族と休みの計画を立てる」										
	10	第6課「家族と休みの計画を立てる」										
	11	第6課「家族と休みの計画を立てる」										
	12	第6課「家族と休みの計画を立てる」						第7課の会話確認				
	13	第7課「人材紹介会社の人と会う約束をする」										
	14	第7課「人材紹介会社の人と会う約束をする」										
	15	第8課「人材紹介会社の人を面談をする」・まとめ・定期試験準備						定期試験のための復習				
評価方法	(1)次の授業で前回の新出語彙について小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実施する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		◎								40%
	授業内評価テスト	◎		◎								20%
	小テスト							◎				20%
	受講状況	◎		○				○				20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。											

科目名	貿易実務B										
科目名(英)											
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	白岩 和幸			
実施年度	2022年度			実施時期	後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	国際ビジネス科2年										
授業概要	貿易の仕組みや貿易の流れの基本										
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					基礎的な貿易についての言葉の習得					
		○				貿易の基礎的なしくみの理解					
				○		意欲的に授業に参加できる					
テキスト・教材 参考図書	『絵で見る貿易のしくみ改訂版』 日本能率協会マネジメントセンター										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	授業概要説明 前期の復習 貿易取引条件									
	2	第6章 貿易取引条件 インコタームズ									
	3	第7章 貿易取引リスクと保険 貿易でてくる保険 ポイント									
	4	第7章 貿易取引リスクと保険 保険約款・貿易保険とはなど									
	5	第8章 輸出実務の流れ 在来船による輸出									
	6	第8章 輸出実務の流れ コンテナ船									
	7	第9章 輸入実務の流れ ①									
	8	第9章 輸入実務の流れ ② 関税の仕組みなど									
	9	第10章 お金のやりとり 外国為替 決済とは									
	10	第11章 貿易に関する規制の仕組み ①									
	11	第11章 貿易に関する規制の仕組み ② 検疫制度など									
	12	第12章 個人輸入 ① 規制・関税									
	13	第12章 個人輸入 ② 貨物の受け取り・アクシデント									
	14	個人輸入のシミュレーション 模擬実践									
	15	後期まとめ テストに向けての復習					定期試験のための復習				
評価方法	(1)授業の中で小テスト (2)レポートを実施する (3)定期試験(筆記)を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	定期試験	◎		◎						60%	
	小テスト・レポート	◎		◎						20%	
	受講状況							◎		20%	
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。										

科目名	IT応用 I B											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者					
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	PowerPointを使って、プレゼンテーションを作成し、発表の練習をしながら、内容がしっかりと相手に伝わる発表ができるようにする											
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○				PowerPointを使って、プレゼンテーション資料が作成できる						
	○	○				相手に伝わるように発表ができる						
テキスト・教材 参考図書	講師作成資料等											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	PowerPointの画面構成、スライド作成										
	2	アニメーション、画面切り替え効果										
	3	リハーサル機能										
	4	スライド作成										
	5	スライド作成										
	6	第1回プレゼン発表					発表前にはプレゼンを完成させる					
	7	第1回プレゼン発表					発表前にはプレゼンを完成させる					
	8	アニメーション付きのプレゼン作成										
	9	アニメーション付きのプレゼン修正										
	10	アニメーション付きのプレゼン仕上げ										
	11	発表練習(Wordで発表内容をまとめる)										
	12	発表練習(発表内容の修正)					発表内容はある程度完成させる					
	13	スライド修正、原稿完成										
	14	第2回プレゼン発表					発表前にはプレゼンを完成させる					
15	第2回プレゼン発表					発表前にはプレゼンを完成させる						
評価方法	(1)授業の中で課題を作成する。(2)発表内容を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	課題作成			◎								60%
	発表内容	○		○								40%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。											

科目名	接客演習B						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	姫嶋 幸子	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ビジネス科2年						
授業概要	1)日本でのビジネス場面で、必要なマナーについて知識を得る 2)1)を踏まえてビジネスシーンでの受付対応、お見送りができるようになる iCDタスクコード						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○	○		第一印象を大切にしたい挨拶を常にすることができる	
	○	○				正しい敬語で受け答えができ、相手に良い印象を与えるポイントを説明できる	
		○				日本独特のしきたりを理解し、正しいマナーを日本語で説明できる	
		○		○		愛想のよい電話の受け方ができる	
		○				あらゆるサービスの場面で適切な対応の仕方を選択肢から選ぶことができる	
テキスト・教材 参考図書	参考: サービス接客検定3級実問題集・プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第一印象・感じのいい自己紹介					
	2	第一印象・入退室				ロールプレイングのための課題をすること	
	3	敬語・書類の渡し方				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	4	指し示し方・物の拾い方、渡し方					
	5	日本における感じのいいビジネスパーソンの髪型、服装					
	6	日本における冠婚葬祭時のしきたりとマナー				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	7	受付対応練習①基本的な言葉の練習				ロールプレイングのための課題をすること	
	8	受付対応練習②ご案内のルーティンを覚える				ロールプレイングのための課題をすること	
	9	受付対応練習③クレームをうける				ロールプレイングのための課題をすること	
	10	受付対応練習④総復習					
	11	サービス接客検定3級にチャレンジ				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	12	サービス接客検定3級にチャレンジ				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	13	サービス接客検定3級にチャレンジ				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	14	サービス接客検定3級にチャレンジ					
	15	まとめ・発表会					
評価方法	(1)正試験期間中に定期試験を実施する (2)全コマ数の2/3以上出席し意欲的に取り組むこと (3)学習したことをロールプレイングで表現する (4)発表会を日本語で行う 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	受講状況				○		20%
	ロールプレイング		○	○	◎		20%
	発表会	○		○	○		20%
履修上の注意	授業で学んだことは、アルバイトなど、日常生活の中で実践すること。 各テストで60点以上得点できるよう、必ず授業の復習を行うこと。						

科目名	企業HR論B									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	田中 雅彦・金子 陽平			
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	国際ビジネス科2年									
授業概要	留学生が日本で就職をし、仕事をしていく上で有益となる知識を身につけ、自己発信力や傾聴力をさらに伸ばし、社会人基礎力などを理解していく。									
授業形式	講義：△		演習：○	実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○			○		日本で仕事をするために必要となる知識を身につけ、よりスムーズに社会人生活をスタートすることができる。				
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション、後期の授業に関して								
	2	留学生の就職の形態について①								
	3	企業研究とは①								
	4	企業研究とは②								
	5	留学生の就職の形態について②								
	6	企業がもつめる人物像について①								
	7	企業がもつめる人物像について②								
	8	企業がもつめる人物像について③								
	9	企業がもつめる人物像について④								
	10	面接における会話について①								
	11	面接における会話について②								
	12	面接における会話について③								
	13	社会人基礎力とは①								
	14	社会人基礎力とは②								
	15	社会人基礎力理解度確認					社会人基礎力の理解をしてくる			
評価方法	確認テスト、提出物および態度・意欲にて評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(60点未満)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	受講状況				◎		50%			
	確認テスト	◎					50%			
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。 再試験は実施しない。									

科目名	プレゼンテーション技法B										
科目名(英)											
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者			
実施年度	2022年度			実施時期	後期			担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ビジネス科2年										
授業概要	自分でテーマを設定し、調べた内容をまとめて、プレゼンテーションをすることで、日本語を使って自分の考えを表現することができるようになることを目標とする。										
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	◎				与えられたテーマに沿った日本語でのプレゼンテーションの準備ができる					
テキスト・教材 参考図書	プリント										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション、プレゼンテーションの基礎知識									
	2	プレゼンテーションをやってみよう①					プレゼンテーションの準備をしてくること				
	3	プレゼンテーションをやってみよう②									
	4	プレゼンテーションをやってみよう③									
	5	プレゼンテーションの準備①					テーマ設定をすること				
	6	プレゼンテーションの準備②									
	7	プレゼンテーション中間発表①					中間発表の準備をしてくること				
	8	プレゼンテーション中間発表②									
	9	プレゼンテーション修正									
	10	プレゼンテーション発表①									
	11	プレゼンテーション発表②									
	12	ファイナリストプレゼンテーション準備					最終発表の準備をしてくること				
	13	ファイナリストプレゼンテーション準備									
	14	全体発表									
	15	まとめ									
評価方法	発表の成果にて評価をする。 グループ活動への参加度合いや態度・意欲も評価に加味する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(60点未満)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	発表	○		◎				○			70%
	受講状況							◎			30%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。 再試験は実施しない。										

科目名	卒業研究											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		田中 雅彦			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	自分でテーマを設定し、調べた内容をまとめて、卒業研究として調査をし、自分の考えを表現することができるようになることを目標とする。											
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	◎				与えられた大テーマに関連した自分の卒業研究のテーマを選び調べることができる						
	○	◎				卒業研究のテーマに沿ったプレゼンテーションができる						
テキスト・教材 参考図書	プリント											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション、プレゼンテーションの基礎知識					自分のテーマ設定をしてくる					
	2	研究レポート作成のポイント①										
	3	研究レポート作成のポイント②					研究レポートを完成させる					
	4	卒業研究の準備①										
	5	卒業研究の準備②					中間発表の準備をしてくる					
	6	卒業研究中間発表①										
	7	卒業研究中間発表②										
	8	卒業研究修正					プレゼンテーションの修正をしてくる					
	9	卒業研究中間発表③										
	10	卒業研究中間発表④										
	11	ファイナリストプレゼンテーション準備①					ファイナリストの発表準備をする					
	12	ファイナリストプレゼンテーション準備②										
	13	ファイナリストプレゼンテーション準備③					全体発表について各自の役割を最終確認する					
	14	全体発表										
	15	まとめ										
評価方法	発表の準備およびその成果にて評価をする。 グループ活動への参加度合いや態度・意欲も評価に加味する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	発表	○		◎				○				80%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。 再試験は実施しない。											

科目名	会計実務B							
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	稲永 千代美	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ビジネス科2年							
授業概要	全経簿記3級の内容をベースに、複式簿記を初めて学ぶ学生を対象に、簿記の仕訳、記帳、計算ができるようになるための簿記原理を学ぶ。簿記は企業の財産管理に役立てたり、簿記で計算した数値を企業外部の人たちに情報を開示する役割もある。そのため、今後の社会活動に役立てられるよう数多くの問題演習を行う。							
	iCDタスクコード							
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○			○		勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みが説明できる。		
		○		○		全経簿記3級の後半の内容を理解し、説明ができる。		
		○		○		全経簿記3級の検定問題すべて解答ができる。		
テキスト・教材 参考図書	『全経簿記能力検定試験公式テキスト3級』(ネットスクール出版) 第4版							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1-3	税金・引出金 消費税の処理 引出金と税金					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4-6	有価証券 有形固定資産 株式の発行 株式会社の資本構成					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7-9	決算の手続き(2) 決算整理記入 売上原価の計算					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	10-12	決算の手続き(2) 貸倒れの見積もり 消耗品費の処理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13-15	決算の手続き(2) 費用の繰延べ、見越し					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	16-18	精算表 財務諸表 損益計算書と貸借対照表 帳簿の締切り					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	19-21	伝票会計・試算表 3伝票制 試算表作成問題の解き方					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22-24	過去問題演習						
	25-27	過去問題演習						
	28-30	過去問題演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを数回実施する。(3)欠席・忘れ物・携帯使用・居眠り・私語を授業態度として評価の対象とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験		◎				60%	
	小テスト		◎				20%	
	受講状況		◎		◎		20%	
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。							

科目名	一般教養Ⅱ											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者					
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	言語と非言語の文章題を解く事により、社会人として必要な知識や問題解決力を身につけることを目標とする。											
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					日本で生活をする上で最低限必要となる漢字の問題を解くことができる。						
	○	○				数的な問題の基本を理解し、自分の力で問題を解くことができる。						
		○				時事問題について自分の考えを持つことができる。						
テキスト・教材 参考図書	プリント											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション、就職適性検査の説明、漢字										
	2	SPI対策、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	3	SPI対策、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	4	SPI対策、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	5	SPI対策、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	6	SPI対策、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	7	SPI対策、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	8	時事、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	9	時事、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	10	時事、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	11	時事、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	12	時事、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	13	時事、漢字					確認テストの準備をしてくる					
	14	時事、漢字					確認テストの準備をしてくる					
15	まとめ											
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)小テストを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		◎								60%
	小テスト	○										20%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。											